今井リサ親衛隊

こくどうロドスタ

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Ｒｏｓｅｌｉａの〝慈愛の女神〟を守るべく、友希那率いる親衛隊が立ち上がりました！

※※※注意!!※※※

・基本的にキャラ崩壊しまくってます。

・Ｐｉｘｉｖ版と基本ストーリーは一緒ですが、若干変更あり。（主に声優さんが出てる箇所）

・一部台詞を追加・変更してます。

目次

みんなやり過ぎだよ!? ―― 1
ショッピング護衛　Ｐａｒｔ１ ― 6
ショッピング護衛　Ｐａｒｔ２ ― 13
ショッピング護衛　Ｐａｒｔ３ ― 24
ショッピング護衛　Ｐａｒｔ４ ― 35
親衛隊を支える人達 ―― 44
不穏な影　前編 ―― 54
不穏な影　後編 ―― 68
羽沢珈琲店の風景 ―― 84
ひとりじゃないんだから！ ―― 96
あまりアタシを怒らせない方がいい ―― 105

みんなやり過ぎだよ!?

氷川家　紗夜の部屋

友希那「みんな揃ったわね？」

紗夜「はい、では早速明日のショッピングについてですが…。」

《今井さんの警護強化について》

紗夜「宇田川さんと白金さんから既に聞いていると思いますが、昨日今井さんが男子校の不良生徒数人に絡まれました。」

友希那「由々しき事態ね。」

あこ「偶々あこ達が近くに居たからよかったですけど大変でしたよ～！ね、りんりん？」

燐子「うん…でも、あこちゃんが奪った学生証をネットに晒しておいたから…しばらくは大人しくなるんじゃないかな…？」

友希那「いや、不良だったら仕返しに大勢の取り巻きを連れて来る可能性も否定できないわ。」
紗夜「まあ仮に取り巻きが着た所で今井さんには指一本触れさせませんが…。」
あこ「でも、あんまり多いとあこ達だけじゃキツそうですよ～？」
友希那「大丈夫よあこ、そんな時の為に何人か応援を呼んだわ。ただの不良程度じゃカカシ同然よ。」
あこ「流石ですね友希那さん！」
燐子「ちなみに…応援は誰が来るんですか…？」
友希那「ごめんなさいね燐子、セキュリティの都合で今は教えられないの…でも全員顔見知りだから安心して頂戴。」
燐子「そうなんですか…でも知ってる人なら…大丈夫そうですね…。」

リサ「…。」
友希那「…リサ？」
リサ「あのさ…ひとついいかな？」
友希那「なにかしら？」

リサ「みんなやり過ぎだよ!?」

友紗あ燐「「「「…え?」」」」

リサ「いやいや!?何でみんな首傾げてるの!?」

リサ「昨日絡まれた所を助けてくれたのは感謝してるけどさ!その後の話は初耳だよ!?」

燐子「でも…あれくらいしないと…ダメだと思ったんです…。」

リサ「流石にネットに晒すのはどうかと思うよ!?それに燐子も特定されたり危ないんじゃ…?」

あこ「大丈夫だよリサ姉!りんりんはネットで協力してくれる人が沢山居るから!」

リサ「それは大丈夫と言えないよ!?」

紗夜「まあ落ち着いてください今井さん。」

リサ「落ち着けないよ!そもそも友希那と紗夜も何で協力してるの!?」

二人「「リサ（今井さん）の為に決まってるじゃない（ですか）。」」
リサ「えぇ…いやアタシの為にやってるのは嬉しいけども…。」
友希那「じゃあ問題無いわね。」
リサ「内容に問題があるよ!?」
友希那「これでも大分抑えた方なのだけれど…。」
リサ「マジか～…。」
友希那「あこが抑えてなかったら不良達は再起不能になっていたわ。」
リサ「あこ、警察沙汰だけは勘弁してね？ね!?」
あこ「分かってるよリサ姉！」

・・・・・・・・・・・・

紗夜「とりあえず今日はこれで解散にしましょう。」
友希那「そうね。」
あこ「昨日の続きが楽しみだねりんりん！」

燐子「そうだね…あこちゃん…！」

リサ「何処で付き合い方を間違えたんだろうなぁアタシ…。」

ショッピング護衛　Ｐａｒｔ１

おはようございます。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです。
今日はＲｏｓｅｌｉａのみんなとショッピングモールに行く予定なんですが…。

今井家　リサの部屋

友希那「いい？リサに近づく奴はどんな手を使ってでも排除するのよ？」
紗あ燐「「はい!!!」」
リサ「大丈夫かなぁ～…？」

ショッピングモール前

リサ「言いたい事は山程あるけど折角みんなで来たんだし楽しみますか！」

友希那「当然よ、楽しまなきゃ相手の思う壺だもの。」
リサ「友希那は一体誰と戦ってるの？」
紗夜「今井さん！最近話題のフライドポテト専門店がこのモールに進出したので早速行きましょう！」
あこ「リサ姉！あこに似合うカッコいい服を一緒に探そう！」
燐子「今井さん…！新しいＰＣを買おうと…思ってるので…もしよろしければ…！」
リサ「はいはい！３人共落ち着いて！」
リサ「う～ん…あ、そういえば朝ご飯食べてないんだよね。まだお昼には早過ぎるしまずは軽く摘めそうなフライドポテトのお店に行こっか？」
紗夜「!!　ありがとうございます。実はすぐ売り切れになってしまう人気メニューがどうしても気になっていたので…。」
リサ「へぇ～！紗夜が気になる程なら凄く美味しいんだろうな～！」
友希那「…偵察班聞こえる？今からフライドポテトの店へ向かうわ。進路上に怪しい奴が居ないか確認を。」
リサ「大袈裟過ぎだよ……で？一体何人巻き込んだの？」
友希那「今回は生憎２人だけよ、本当は４人来るはずだったのだけれど急用で２人来れなくなったの。」

リサ「正直その２人も解放してあげたいんだけど。」
友希那「ダメよ、人数が減った分報酬を弾むと約束してるから今更断れないわ。」
リサ「報酬あるの!?」

リサ（何だかどんどん大事になっていって心配になってきた…お願いだから何も起こりませんように…。）

フライドポテト専門店前

リサ「す、凄い行列じゃん…紗夜の言ってたヤツ買えるかな?」
紗夜「まだオープンして間もないですからね、しかしこれ程とは…。」
友希那「先にテーブルを確保した方が良さそうね。あこ、お願い出来るかしら?」
あこ「了解です友希那さん!」

・・・・

あこ《テーブル確保しました!》

友希那「了解、じゃあ私達が来るまで周囲の警戒を。」
あこ《はい！》
友希那「燐子、お店のスタッフに在庫の確認を……燐子？」
燐子「これ…偵察班が送ってきた…写真なんですけど…例の不良グループに…間違いないです…！」
友希那「やっぱりやって来たわね。」
紗夜「ポテトを買う邪魔をしに来たのでしょうか？中々度胸のある不良生徒ですね。」
リサ「…まさかとは思うけど本気で喧嘩するつもりじゃないよね？」
友希那「リサに近づかなければ特に何もしないわ。」
リサ「そこは全否定してよ!?もし警察に補導されたりしたらどうするのさ!!」
紗夜「心配無用です、静かに素早く済ませられるように訓練しているので。」
リサ「どんな訓練してるの!?」
燐子「それにいざとなったら…私が警察をおどｓ……説得しますから…！」
リサ「今脅すって言いかけたよね!?補導を通り越して逮捕だよ!!」

リサ（ヤバイよヤバイよ！もし不良に出会ったらＲｏｓｅｌｉａが存亡の危機じゃん！絶対に阻止しなきゃ…！）

フードコート　テーブル席

リサ「よかった…何事も無くポテトが買えて…。」
あこ「さ、紗夜さん？１人でその量食べるんですか？」
燐子「見てるだけで…胸焼けしそうです…。」
紗夜「そうかしら？ポテラーの私からすればお試しサイズなのだけれど。」
リサ「マッ○のＬサイズより数倍多いんだけど…ところでポテラーって何？」
紗夜「ポテト愛好家の通称です、ジ○リアンの親戚みたいなものかと。」
リサ「それって愛好家というよりジャンキーだよね？」
紗夜「いえ、私は１日１ポテトなので愛好家ですよ？」
リサ「毎日食べてるの!?」
友希那「よく太らないわね…羨ましいわ。」
紗夜「摂取したカロリーは全て訓練で使い切る様にしていますから。ちなみに壁や天井を走る時は普段の２倍食べますね。」
リサ「何かサラっととんでもない事言ってるけど気の所為だよね？気の所為…。」

「アニキ、マジでやるんっすか？」
「たりめーだ！あんなちんちくりんのＪＫに負けて黙ってられっかよ!!」
「ですけどあのチビ１人に全員ボコられたってマジっすか？それに隣の黒髪もやべー奴だって…。」
「認めたくはねーが事実だ…しかも黒髪のアイツは俺やダチの事をネットにばら撒きやがった…あんな顔して悪魔みてーな奴だ!!」
「だがアイツは喧嘩が苦手みてーだ、アイツをボコればこっちのモンだ!!」
「それに今日はお荷物になりそうな連れが居るし、数で押せば楽勝さ!!」
「今日はウチの腕っ節が勢揃いっすからね～！あのチビ共もきっとビビりますよ！」
「違いねぇ!!」

この時２人は知らなかった、お荷物だと思っていた友希那と紗夜がとんでもない〝爆

弾〟だった事を…。

??《友希那先輩！あの人達が友希那先輩と紗夜先輩をお荷物って言ってます！》

??《あの人達、生きて帰れるかな？》

ショッピング護衛　Ｐａｒｔ２

こんにちは。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです。
不安を抱えつつもショッピングはトラブルも無く順調に……

??《友希那先輩！あの人達が友希那先輩と紗夜先輩をお荷物って言ってます！》

ゆく訳がありませんでした……（泣）

フードコート　テーブル席

友紗あ燐「「「…。」」」

リサ「み、みんなどうしたの？急に黙り込んで…？」
友希那「…リサ、あの不良共は私達に宣戦布告したわ。」
紗夜「穏便に済ませたかったのですが、これでは致し方ありません。」
あこ「二度とリサ姉に近付けないようにしちゃいましょう！」
燐子「何処まで足掻けるか…楽しみですね…フフフ…。」
リサ「え、ちょ…マジでやるの…？」
友希那「マジよ。」
リサ「いやでも危ないって!!」
友希那「大丈夫よ、５分で終わらせるわ。」
友希那「燐子、すぐに配置場所へ。周辺は別動隊が確保済みよ。」
燐子「分かりました…！」タタタタッ…
リサ「ああちょっと燐子!!…行っちゃった～…。」
紗夜「心配し過ぎですよ今井さん、この銃があれば何の心配もありません。」スチャ
リサ「さ、紗夜？それ本物じゃないよね…？」
紗夜「流石に本物じゃありませんよ？モデルガン（ＴＥＣ―９）を改造して作った麻酔銃です。」
リサ「ま、麻酔銃!?」

紗夜「弾は大和さんに作って貰いました。ちなみに麻酔薬の調合は日菜です。」
リサ「ヒナがグルなのは何となく予想してたけど、まさか麻弥まで…。」
紗夜「日菜の麻酔薬はとても優秀でして……今日の分を調合してた時は妙に機嫌が悪かったですが。」
リサ「ちょ、不安になる事言わないでよ!?」
あこ「流石にひなちんも命に関わる事は（多分）しないから大丈夫だよリサ姉！」
リサ「ホントかなぁ……で、あこの警棒は一体何処から？」
あこ「えーと、りんりんが誰かに〝借りてきた〟って言ってた！」
リサ「借りてきたって何それ!?」
あこ「しかも好きに使っていいらしいから改造しちゃった！ほら、このボタンを押すとスタンガンに…！」ビリビリッ!!
リサ「危なっ!?」
あこ「これで敵はイチコロだよ！」
リサ「ダメだ、ツッコミ所が多過ぎてこっちがイチコロにされそう…。」
友希那「これが普通だと思えば突っ込む必要も無くなるわよ？」
リサ「無茶言わないでよ友希那～…。」

・・・・・・・・・・

ショッピングモール３階　吹き抜けテラス

??「あ、燐子先輩！こっちです！」

燐子「お待たせしました花園さん…敵の様子は？」

たえ「１階で決起集会中です。聞いてる限りだともうすぐ終わるみたいですよ。」

燐子「分かりました…では花園さんも…接敵に備えてスタンバイを…。」

たえ「了解です！」

燐子（わざわざ観測し易い場所に集まってくれるなんて…マヌケな人達ですね…。）

・・・・・・・・・・

燐子《友希那さん、配置完了です…いつでもどうぞ…！》

友希那「了解したわ…紗夜、あこ、始めるわよ？」

２人「「はい！」」

友希那「リサはここで待ってて、すぐ戻るから。」

リサ「う、うん…みんな気をつけてよ…？」

ショッピングモール1階　吹き抜けスペース

リーダー「いいか？所詮相手はＪＫだ、こんだけ居りゃビビって何も出来ねえハズだ！」

リーダー「俺達に喧嘩を売った事を後悔させてやれ！」

不良達「「「オッス!!!」」」

モブ不良「しっかしこのメンツは壮観っすね～！流石っすよアニキ!!」

リーダー「ははっ!!照れるぜ…!!」

リーダー「よし！それじゃアイツらに殴り込みに…！」

??「誰に殴り込むの？」

リーダー「…ああ？」

モブ不良「誰だコイツ…？」

??「もう一回聞くね、誰に殴り込むの？」
リーダー「テメェ…アイツらの仲間か？」
??「質問に質問で返さないでよ～。」
リーダー「うるせぇ!!テメェの仲間に殴り込むんだ!!悪いか!?」
??「やっぱりそうだったんだね！じゃあ……。」

香澄「全員お星様にしてあげるね!!」ブンッ!!

一瞬の出来事だった。
猫耳の様な髪型をした少女が取り巻きの1人に強烈な顔面パンチを喰らわせたのだ。
パンチを食らった取り巻きは、顔面を潰されながら地面に叩き付けられてそのまま動かなくなった。
何が起こったのか分からず呆然とする不良達…そして殴り終えた少女が言い放つ。
香澄「次は誰にしようかな～？」キョロキョロ
リーダー「お、おい…嘘だろ…!?」

不良達は恐怖した…!!
自分達はとんでもない化け物に喧嘩を売ってしまったと…!!
そして追い討ちを掛けるかの如く…
友希那「そこの貴方達、一昨日は私の親友が世話になったそうね?」パキッ　ポキッ
紗夜「口の割には人数が少ないですね?これではリロード前に終わってしまいますよ。」スチャ
あこ「我が闇の怒りを思い知るが良い!」スッ
たえ「香澄、フライングはダメだよ? 私の獲物が減っちゃうじゃん?」

殺気立った親衛隊に包囲されたのだ。

リーダー「お、オメーら!!ビビってないで戦え!!」ガクブル
モブ不良「むむむ無茶言わないで下さいよアニキ!?」ガクブル
リーダー「馬鹿野郎!!このままじゃ殺されちまうぞ!?行け!!」
モブ不良達「「「う、うおおおおおお!!!」」」
友希那「ハァ!!!」バキィ!!
モブ不良1「ぎゃあああああ!!!?
!!!腕がああああああ!?」

友希那「人間には２１５本も骨があるのよ、１本くらい何よ!!」

ある者は腕をへし折られ…。

紗夜「何処を向いてるんですか？私は此処ですよ!!」

モブ不良２「嘘だろ!?ジャンプであんなトコ（高さ５ｍ）まで!?」

紗夜「喰らいなさい!!」ダダダダダッ!!

モブ不良２「のわああああああ!!!!?」

ある者は麻酔弾を撃ち込まれ…。

モブ不良３「このクソチｂがああああああああ!!!!?」ビリビリビリビリッ!!

あこ「ふっふっふ!!慈愛の女神を狙う者はこうなるのだ!!」

モブ不良３「」ジュゥゥゥゥ…

ある者は電撃を浴びせられ…。

たえ「今日は出血大サービスだよ!!」ポイッ
ザクザクザクッ!!
モブ不良４「痛えええええええ!!!!!?」
たえ「あ、出血（物理）になっちゃった。ゴメンね？」

ある者はピックで斬り刻まれ…。

燐子《戸山さん！５時方向に逃亡者！》
香澄「了解です!!」
ガシッ
モブ不良５「見逃してくれえええ!!!」
香澄「ダメだよ逃げたら～!!」ブンッ!!　グシャ!!

ある者は逃亡に失敗した…。

ウテ!!ウチコロセ!!
ダダダダダダダッ!!!

オッチャン!!ナイスタックル!!
オタスケー!!
アーーッ!!
ウボァーー!!
リーダー「何なんだよ…何なんだよコレはあああああああ!!!!!」
フリョウセイトヲセイアツ!!
リーダー「!?」
あれだけ自信満々に揃えた不良軍団は殲滅され、親衛隊の目線はアニキと呼ばれる不良達のリーダーに向けられていた。
リーダー「ヒッ…く、来るなぁ!!」
腰が抜けながら必死に後ずさるリーダー。
紗夜「では湊さん、トドメの一撃を。」
友希那「ええ。」
たえ「どんな断末魔が聞けるかな?」
友希那がリーダーを壁に追い詰める。
リーダー「お、お願いだぁ!!まだ死にたくねえよぉ!?」
友希那「大丈夫よ、死にはしないわ。」

リーダーの頭を掴み拳を振り上げる友希那。
リーダー「やめろ…や、やめっ……！」
全身が砕ける様な感覚と共にリーダーの意識は途切れた…。

ショッピング護衛　Ｐａｒｔ３

こんにちは…。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです…。
今日は楽しいショッピングのハズだったのに…

??「…最後通告です。モデルガンを捨ててこの方達へ謝罪しなさい！」
紗夜「出来ません！コイツらは私の大切な人を傷つけようとした！コイツらに頭を下げる位なら学校なんか辞めてやります!!」
あこ「あわわわわ…！」アタフタ
友希那「面倒な事になったわ…。」
燐子「ど、どうしましょう…？」
もうダメだぁ…おしまいだぁ…（泣）

数分前
ショッピングモール1階　吹き抜けスペース

友希那「口程にも無かったわね。」
紗夜「全くです。」
あこ「あこ、もっと暴れたかったです！」
不良達を一掃し、後片付けを始めていた親衛隊一同。
予定では1分以内に痕跡を残さず引き揚げる事になっていたのだが…。

??「氷川さん!!一体これは何事ですか!?」
紗夜「っ!?工藤先生!?」
なんと運悪く花咲川の学年主任に見つかってしまった。
流石にこれは想定外で紗夜も慌てて弁明するが…。
先生「どんな理由があろうともこんな事していい訳がないでしょう!!」
紗夜「ぐっ…！」
ごもっともである。

先生「風紀委員でもある貴方が暴力沙汰だなんて失望しました。この件は今から学校に報告します！」
紗夜「なっ…!?」
そう言いながらスマホを取り出し学校へ電話しようとする工藤先生、これに焦った紗夜は…。
紗夜「させません!!」
ダダダッ！
「きゃっ!?」
咄嗟に持っていた麻酔銃でスマホを蜂の巣にしてしまった。
紗夜「あ、危ないところだったわ…。」
たえ「お～！流石です氷川先輩！」パチパチ
先生「な、ななんて物を持ってるんですか!?」
紗夜「これですか？モデルガンです。」
先生「威力が本物並ですよ!?」
紗夜「改造してますので。」
先生「…氷川さん、いつからこんな事を？」
紗夜「２ヶ月程前からです。」

先生「如何なる理由があろうとも、貴方の行いには賛同出来ません。」
先生「そのモデルガンを捨てて、貴方が暴力を振るった方へ謝罪するのであれば軽い処分で済ませてあげられます。」
先生「もし受け入れないのであれば……学校に退学処分を申告します！」
親衛隊メンバー「「「「「!?」」」」」
先生「さあ、選んでください氷川さん！」
先生「貴方ほど優秀な生徒ならどちらを選ぶべきか分かりますよね？」
紗夜「…さい。」
先生「はい？」
紗夜「煩いと言っているんです!!」
紗夜「貴方に私の何が分かるんですか!?それ以上言うならその身体に痛い程教えてあげましょうか!?」
先生「…最後通告です！モデルガンを捨ててこの方達へ謝罪しなさい！」
紗夜「出来ません！コイツらは私の大切な人を傷つけようとした！コイツらに頭を下げる位なら学校なんか辞めてやる!!」

・・・・・・・・・・

リサ（ちょ、ちょっと紗夜!?流石に言い過ぎだって!!）
不良達の断末魔が聞こえた後、友希那達が中々戻って来ないのでこっそり覗きに来たリサは予想外の事態に困惑していた。
リサ（このままじゃ本当にＲｏｓｅｌｉａが無くなっちゃう…どうすれば…!!）

??「そんな所で何してるんですか?リサさん?」
リサ「!!」
蘭「大丈夫ですか?顔が真っ青ですよ…?」
モカ「モカちゃんもいまーす。」
リサの前に現れたのは、Ａｆｔｅｒｇｌｏｗの美竹蘭と青葉モカ。
偶然通りがかった２人にリサは藁にも縋る思いで相談を持ちかけた。
蘭「…正直、紗夜さん達はやり過ぎだと思います。」
リサ「や、やっぱりそうだよね…。」
蘭の意見は当然である。常識のある人から見れば親衛隊メンバーの行動は異常なのだ。

リサ「アタシ、今から紗夜を説得しに…。」
ポンポン
リサ「…モカ？」
モカ「…。」フルフル
モカ「あたしに任せなさーい！」タタタッ
リサ「え!?モカ!?何する気!?」
蘭「モカ!!」
突然、モカは紗夜達の方向へ走り去ってしまった。
リサ「モカ、何する気なんだろう？」
蘭「分かりません…でも、モカがああ言うなら何か良い案があるんだと思います。」
蘭「信じて待ちましょう、リサさん。」
リサ「そうだね…頼むよモカ…!!」

・・・・・・・・・

一方、紗夜の暴走に流石の友希那も焦り始めていた。
リサの為にやった事でメンバーがバラバラになってしまっては元も子もないからだ。

友希那「紗夜、今回は私の作戦が甘かったわ。ここは一旦引きましょう？」
紗夜「湊さんまでアイツらの味方をするんですか!?今井さんを守れるなら学校など…!!」
友希那「また全員バラバラにする気なの貴方は!!」
友希那「引きなさい!!これは命令よ!!」
紗夜「ぐっ…!!」
紗夜「分かり…ました…。」
友希那の命令を受け入れ麻酔銃を捨てる紗夜。
紗夜「工藤先生…今回の件は私が全責任を負います。ですので、湊さん達への責任追及はしないでください！」
「…分りました。受け入れるのであればその点は考慮してあげましょう。」
紗夜（ごめんなさい今井さん…私の所為で…。）
紗夜（もう、私に居場所なんて…。）

「ちょーっと待ったー!!」

「「「「「!!」」」」」

紗夜「え？青葉さん…？」

モカ「紗夜さーん？諦めるのはーすこーし早いですよー？」

紗夜「で、でももう私は…。」

モカ「あたしにかかれば簡単でーす！」

友希那「青葉さん、一体何を…？」

たえ（何だろう？嫌な予感がする…。）

ガシッ

たえ「香澄！走って！」グイッ

香澄「わわっ!?どうしたのおたえ　!?」タタタタッ

友希那「ちょっと!?２人共何処行く気!?」

モカ「いきますよー？モカちゃん奥義…」スッ

「　マ　イ　ン　ド　コ　ン　ト　ロ　ー　ル　　！　！　」

フードコート　テーブル席

リサ「…あ、あれ？アタシいつここに戻ってたんだろ？」
リサ「って、みんなも戻って来てるし。」
友希那「何が起きたかハッキリ思い出せないわ…。」
紗夜「不良生徒を片付けてそれから…。」
あこ「確か、紗夜さんが誰かと言い争いになって…。」
燐子「そこに来た人が…何かを…。」

気が付けばテーブルに戻っていたＲｏｓｅｌｉａ一行。
もしかしてテーブルで居眠りしていたのではないか…と思って吹き抜けスペースに向かうと片付けた不良達がまだノビていた。

じゃあ紗夜が言い争っていた人とそこに来た人は誰か？これは誰も思い出せずに終わる。

紗夜ですら思い出せないのは他の一般客とか見知らぬ人だったからでは？という事で結論付けた。

リサ「…まあ、何はともあれみんな戻って来たし再開再開！」

紗夜「そうですね、折角の休日でこれ以上ジッとしては勿体無いですから。」

リサ「そうそう！…よーし、次は服を見に行こっか！」

あこ「リサ姉！あこにピッタリな服よろしくね！」

リサ「オッケーあこ！」

・・・・・・・・・

蘭「…で？モカは一体何やったの？」

モカ「んー？ヒミツだよー？」

蘭「別に教えてくれたっていいじゃん。」

モカ「企業秘密ってヤツですなー。」

蘭「…ま、取り敢えずＲｏｓｅｌｉａが解散しないで済んだのはよかったと思うけ

ど。」

モカ「湊さんの歌声聴けなくなったら寂しいもんねー、らーんー？」

蘭「ち、ちが…そういう意味じゃないって!!」

後日、モカから高額な請求書が届き、友希那達が困惑するのだがそれはまた別のお話…。

ショッピング護衛　Ｐａｒｔ４

こんにちは。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです。
なんやかんやあったけど、やっと落ち着いて買い物が出来そう！

リサ「…さっきから友希那と紗夜、財布と睨めっこしてるけどもしかしてお金無いの？」
紗夜「いえ、手持ちは充分有るのですが先程の件で多額の出費が…。」
リサ「え……ま、まさか何か壊したの!?」
友希那「違うわよ、応援に来た戸山さんと花園さんに渡す報酬が合計９万円になってしまったの…かなり痛いわね…。」
リサ「きゅ、９万円!?」
紗夜「元々の報酬が高過ぎたのと、花園さんに〝人数が半分になったから報酬は倍ですよね？あとオマケ付きで〟…と、せがまれまして…。」

友希那「予定では1人2万円のハズが4万５０００円よ…おかげで私も紗夜もバイトする事にしたわ…。」
リサ「女子高生同士がやり取りする金額じゃないよソレ……もう辞めたら？」
友希那「報酬のシステムは見直しが必要だけど親衛隊は辞めないわ。貴方を守る為にも。」
リサ「その気持ちは嬉しいけどさ、程々にね？」
友希那「分かってるわ。」

・・・・・・・・・・

ショッピングモール2階　ブティック
リサ「あこ！これなんかどう？」
あこ「おー！カッコいい！」
燐子「あこちゃん…少しイメチェンして…こんなのとか…！」
あこ「これもいいな～！」
リサ「早速試着しよっか！」
あこ「うん！」

リサ「ほら、友希那と紗夜も一緒に来て！」
友希那「今行くわ。」
キャッキャッ　ウフフ
友希那「楽しそうね…。」
紗夜「ええ…。」
友希那「あの子達の笑顔を見るとこっちも嬉しくなるわ。」
紗夜「私もです、これからもあの笑顔が見られるように頑張りましょう！」
友希那「勿論よ！」
友希那「…ところで、バイトのアテはあるの？」
紗夜「羽沢さんのお店はどうでしょう？最近かなり忙しそうなので是非力になりたいと思いまして。」
友希那「そういえば行列が出来ているのをよく見かけるわね。」
紗夜「新作のケーキとパスタがＳＮＳで評判になってるそうです。私も一度食べたのですがこれが絶品でして…。」
友希那「なるほど…じゃあ今日の帰りにバイト出来るか聞きに行きましょう。」

・・・・・・・・・・

１時間後
リサ「あこはやっぱりゴスロリがよく似合うね～!??」
あこ「えへへ～!ありがとうリサ姉!」
リサ「どういたしまして!??」
あこ「りんりんもありがとね!おかげでいつもより沢山買えたし、今度お礼するね!」
燐子「お、お礼だなんて…それ程でもないよ…。」
リサ「…もしかしてレジで謎の割引されたの燐子の仕業?」
燐子「はい…実は私…このお店の店長さんと…ＮＦＯ仲間なんです…。」
あこ「え!?そうだったのりんりん!?」
燐子「うん、時々パーティクエストで…一緒になる…フル強化アーマーの…タンクの人だよ…。」
あこ「あっ!あの人か～!」
燐子「親衛隊の協力者を…探してた時に…店長さんから…教えてくれて…。」
あこ「凄い偶然じゃん!でもりんりん、あんなに割引してもらって大丈夫だったのかな…?」
燐子「大丈夫、今回は見返りに…ライバルブランドに…妨害工作を…。」

リサ「いやいや!?何してんの!?」
燐子「アパレル業界も…大変なんですよ…?」
リサ「燐子がやったってバレたらどうするの!!」
燐子「痕跡を…残さないように…してますから…心配ありません…!」
リサ「その自信の根拠は何!?」
燐子「今井さん…それを聞いたら…消されちゃいますよ…?」ズィ
リサ「ちょ、燐子?顔が怖いんだけど!?」
あこ「リサ姉?りんりんの事はこれ以上聞かない方がいいよ?」
リサ「アッハイ」
リサ（マジで怖かったんだけど2人共…。）ヒエー

・・・・・・・・・

ショッピングモール3階　PCショップ
あこ「りんりん、今のパソコンもう替えちゃうの?」
燐子「ううん、今のは仕事専用にして…ゲーム用に新しく…買おうかなって…。」
あこ「それって一緒じゃダメなの?」

燐子「仕事で使うソフトやデータが…圧迫してるし…ＵＳＢや外付けＨＤＤを…あんまり増やしたくないから…。」
燐子「それに…いざとなったら…特攻出来るし…。」
リサ「特攻!?」
あこ「でも、ゲーム用だと高そうだけどお金大丈夫?」
燐子「…。」
あこ「りんりん?」
燐子「ＦＸで…取り返すから…。」トオイメ
リサ「それ絶対ダメなヤツだー!?」
リサ「燐子!!今ならまだ引き返せるから!!今日は止めとこ!!ねっ!?」
燐子「ダメです!!限定モデルが…今日までなんです…!!」
リサ「気持ちは分かるけどもう少しお金貯めてから買お!!また同じ様なヤツ出るってきっと!!」
燐子「…い、今井さんがそこまで言うなら…仕方ありません…今回は諦めます…。」
リサ（よかった～…これ以上金欠が増えるとスタジオ借りれなくなるし。）ホッ
あこ「リサ姉～?ＦＸって何?」
リサ「う～ん、簡単に言うとお金を稼ぐ方法かな?」

あこ「え!?何それ気になる!!リサ姉教えて!!」
リサ「あこにはまだ早いよ?それに失敗したら一文無しになったりするらしいし。」
燐子「酷い時は大赤字で…自殺したり…。」
あこ「り、りんりん?それホント…?」
燐子「極端な例だけど…無くはないよ…?」
あこ「ＦＸってそんなに怖いんだ…やっぱりやめとこ…。」
リサ「お金ってのはコツコツ貯めるのが一番だよ、あこも高校生になったらバイト出来るし今は我慢我慢！」
あこ「そうだねリサ姉！」

・・・・・・・・・・

数時間後
あこ「今日は色々あったけど楽しかったー!!」
燐子「パソコンは買えなかったけど…楽しめて良かった…！」
リサ「うんうん！突っ込み所も満載だったけどアタシも楽しかったよ！」
友希那「Ｒｏｓｅｌｉａに馴れ合いは要らない…と言ったけれど、やっぱりこういう

時間も必要ね。」
紗夜「数ヶ月前にはバラバラなりかけたなんて、今では嘘の様ですね…。」
リサ「以前のピリピリした雰囲気が薄れて自然な笑顔が増えたもんね～、特に友希那と紗夜！」
２人「「そ、そうかしら（でしょうか）？」」
リサ「アタシが言うんだから間違いないって!??」

・・・・・・・・・

リサ「それじゃ、今日はここで解散かな？」
友希那「そうね、私と紗夜は羽沢さんのお店に用事があるから…先に失礼するわ。」
紗夜「皆さん今日はありがとうございました、お先に失礼します。」
リサ「２人共また明日ね～！」
あこ「さようなら―！」
燐子「さようなら…。」

リサ「あこと燐子はこの後どうする？アタシも夕方に家族と出掛けるから帰るつもり

だけど。」
あこ「あこは特に…あ!?ＮＦＯの新イベント忘れてた!!」
あこ「りんりん!!早くしないと狩場が無くなっちゃう!!」
燐子「そうだね…じゃあ今井さん…私達もこれで…！」
リサ「そっか！じゃあまた明日ね～??」ノシ
リサ「……さて、アタシも帰りますか。」

リサ（明日もみんなと楽しい時間を過ごせますように…！）

親衛隊を支える人達

こんにちは。
Ｐｏｐｐｉｎ，Ｐａｒｔｙのキーボード担当、市ヶ谷有咲です。
急に香澄が「みんなで美味しい物食べに行こうよ！」とか言い出してウチの蔵に集合したんだが…。

有咲「おい香澄!!おたえ!!こんな大金どうやって稼いだ!?」
香澄「友希那先輩から貰った!!」
たえ「私は氷川先輩からだよ？」
有咲（なんてこった…よりによってあの２人からカツアゲしたのか!?）
有咲「貰ったにしては多過ぎだろ!?」
香澄「も～～！疑ぐり深いよ有咲～？」
有咲「疑って当然だ!!」
たえ「私がお願いしたら増えたんだ。」
有咲「何やってんだおたえ!?」

りみ「香澄ちゃんとおたえちゃん…不良になっちゃったのかな…？」
沙綾「まあまあ有咲もちょっと落ち着いて？…で、２人共どういう経緯でお金貰ったの？」
香澄「えーっとね、リサさんを守ってくれたお礼だって！」
沙綾「リサ先輩を？」
香澄「うん、この間リサさんが不良に絡まれてるから協力して欲しいって友希那先輩に頼まれたんだ。」
香澄「それでね、リサさんを襲いに来た不良達を私とおたえ、Ｒｏｓｅｌｉａの人達でやっつけたの!!」
有咲「おまっ…そんな危ない事してたのか!?」
たえ「あの不良の人達、弱かったよ？」
有咲「そういう問題じゃねーよ!!」
沙綾「あ～…もしかしてクラスの子が言ってたショッピングモールの乱闘騒ぎってそれだったんだ？」
たえ「え？そんな話あったかな？」
りみ「おたえちゃん、昨日一緒に聞いてたよね？」
たえ「そうだっけ？昨日はずっと何のお肉を食べようか考えてたから覚えてないや。」

りみ「あはは…おたえちゃんらしいね…。」
有咲「全く…今回は怪我したりしなかったから良かったけどさ、そういう危ない事はやるんじゃねーぞ？」
香澄「えぇ～？全然危なくなかったよ有咲ぁ～？」
たえ「そうだよ有咲、私が不良程度に負けたりしないよ？」
有咲「お前ら私の話聞いてんのか!?」
沙綾「まあ、不純な理由で貰った訳じゃ無さそうだし、有咲も今回は許してあげなよ？」
有咲「…し、仕方ねえなぁ。」
香澄「有咲なら分かってくれると思ってたよー!!」ガバッ
有咲「だぁぁぁ!!抱き付くんじゃねーーー!!!」
たえ「ところで香澄？何処のお店に行くの？私はお肉の美味しい店がいいなぁ…。」
りみ「お肉の美味しいお店なら…○○って焼肉屋があるよ？先週お姉ちゃんと一緒に行ったんだけど、珍しい部位のお肉が沢山あって…。」
たえ「え！すっごい気になる!!早速行こう!!」タタタタッ
りみ「あ！待っておたえちゃん！」タタタタッ
沙綾「おたえも相変わらずだな～…ほら2人共、置いてっちゃうよ？」

香澄「ああ！待ってよさーやぁ！」タタタタッ
有咲「はぁ…ほんっと騒がしいヤツだな…。」

香澄「そういえばおたえ？モカちゃんが来た時、何で急に逃げようとしたの？」
たえ「あと少しでモカの〝能力〟に巻き込まれてたからだよ？」

・・・・・・・・

芸能事務所　会議室
日菜「はぁ…。」イライラ
麻弥「ひ、日菜さん？もう過ぎた事ですし流石に許してあげましょうよ？」
千聖「そうよ日菜ちゃん…スタッフさんだってワザとやった訳じゃないんだから…。」

皆さんこんにちは…。
まん丸お山に彩りを、Ｐａｓｔｅｌ＊Ｐａｌｅｔｔｅｓのボーカル担当、丸山彩です…。

先日、スタッフさんが収録日を間違えちゃったのを日菜ちゃんが未だに怒ってます…。

日菜「折角おねーちゃん達と遊びに行く予定をパァにされたんだから、絶対に許さないよ?」イライラ

彩「で、でも今度また行く事になったんだよね?その時にパァになった分も楽しめば良いんじゃ…。」

日菜「彩ちゃん?今度余計な事言うと口をキュッてしちゃうよ?」イライラ

彩「ごめんなさい許して下さい何でもするから!」

日菜「じゃあ、しくじったスタッフさんにコレを投げ付けて来てよ?」コトッ

彩「え、何この瓶?」

日菜「あたしの特製アロマオイルだよ。瓶が割れるとオイルがシューってなって、それを吸ったら1週間はグッスリ間違い無し!」

彩「1週間!?それホントに大丈夫なの!?」

日菜「スタッフさんはきっと死ぬ程疲れてたんだよ、だから死ぬ程グッスリしてもらうのが一番だと思ったんだ。」

彩「いやいやいや!?」

日菜「ほら彩ちゃん、早く行って来てよ？約束破ったら彩ちゃんにも吸ってもらうから。」
彩「う、嘘だよね日菜ちゃん…!?」
日菜「…それとも、後ろに居るイヴちゃんにスパッと真っ二つにされたい？」
彩「へ!?」クルッ
イヴ「アヤさん？ブシに二言はありません！その瓶でスタッフさんに引導を渡して来て下さい！」スチャッ
彩「ヒッ…分かった!!分かったから刀をこっちに向けないでぇぇぇぇ!!!」タタタタッ
千聖「…日菜ちゃんとイヴちゃんはどうしてあんな事を？」
麻弥「あ～…それに関してはジブンが説明しますね。」
麻弥説明中……。
千聖「なるほど…それにしても意外ね、友希那ちゃんがそういう事するなんて。」
麻弥「ジブンも協力して欲しいと言われた時は冗談だと思ったのですが、あまりの真剣さに断れませんでした…。」

千聖「でも、２人共流石に度が過ぎてるわ。これは一度お説教しないと…。」
麻弥「ち、千聖さん!?それは絶対やめた方がいいっス!!」
千聖「ちょっと麻弥ちゃん？何故止めるのかしら？」
麻弥「Ｒｏｓｅｌｉａの皆さんにバレたら大変な事になるんっスよ!?」
千聖「具体的には？」
麻弥「一言で言うと…千聖さんが芸能界から消されます…。」
千聖「…え？」
麻弥「ちなみにこれ以上は教えられません…ジブンの命に関わるので…。」
千聖「ま、麻弥ちゃん…？」
麻弥「申し訳ありませんが千聖さん…この件に関してはお引取りいただけませんか？」
千聖「…分かったわ。だけどスキャンダルになるような事は絶対にしないで、約束よ？」
麻弥「心得ておくっス…。」

・・・・・・・・・

羽丘女子学園　屋上

蘭「…あのさ。」

モカ「ん～？」

蘭「この間のアレ、そろそろホントの事を教えて欲しいんだけど？」

モカ「え～？秘密って言ったよね～？」

蘭「確かにそうだけど、やっぱり気になる……どうやってあの場を収めたのか。」

モカ「…仕方ありませんな～、じゃあ特別に教えて差し上げましょ～。」

モカ説明中……。

蘭「記憶や思考を操作って…何それ最強じゃん？」

モカ「ふっふっふ～、モカちゃんに敵などあまり居ませんぞ？」

蘭「あ、居るには居るんだ？」

モカ「あの時も実は居たんだよね～、技を使う直前に逃げられちゃったけど。」

蘭「へぇ、そんなに知られるのがマズい人？」

モカ「あたし的には放っておいても大丈夫だとは思ってるけど～、不意に広められちゃうと良くないなぁと思いまして。」

モカ「以前も何度か忘れて貰おうとアタックしたんだ～。でも毎回絶妙なタイミングで逃げられちゃう。」
蘭「ふーん…ちなみにその人って誰なの？」
モカ「名前は敢えて伏せるけど、蘭も知ってる人だよ～。」
蘭「そこ伏せちゃうんだ…。」
モカ「その人と蘭の関係がギクシャクしない様に、モカちゃんなりの配慮ですよ～？」
蘭「でもまあ、あたしが知ってる人ならそんなに心配する事も無いと思うけどね。」
蘭「…あ、もうこんな時間だ。そろそろ戻ろr…あたしを指差してどうしたの？」
モカ「蘭～？秘密を教えてあげるとは言ったけど、能力を使わないとは言ってないよ？」
蘭「…も、モカ!?冗談でしょ!?」
モカ「ふっふっふ～、残念だけどそうはいかないのだ～！」
蘭「だ、誰か！助けt」

「マインドコントロール！」

蘭「…。」ポケー

モカ「ゴメンね蘭？詳しい事は忘れて貰ったけど、あたしが能力持ちなのは覚えたまにしてあげたからそれで許してね～。」

蘭「…あ、あれ？さっき何の話してたんだっけ？」

モカ「もうこんな時間だって言ってたよ～？」

蘭「なんかモヤモヤするけど次の授業は遅刻すると面倒だし、続きは後で…。」

モカ「じゃあね～。」

モカ（そういえば湊さん、ポピパの２人にバイト代渡してたな～…あたしも大活躍だったから貰う権利はあるよね～？）

不穏な影　前編

おはようございます。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです。
今日はＣｉＲＣＬＥで打ち合わせをやるらしいんだけど、何の打ち合わせだろう？

ＣｉＲＣＬＥ　カフェ
友希那「では始めるわ、まずは紗夜から…。」
紗夜「はい、実は日菜に掛け合ってお願いしていたＲｏｓｅｌｉａのテレビ出演が決まりました。」
リサ「マジで!?アタシらテレビ出るの!?」
あこ「やったーー!!これであこも有名人だーー!!」
燐子「遂にＲｏｓｅｌｉａも…全国デビューするんですね…!!」
リサ「それで!?何の番組なの!?」
紗夜「日菜がメインパーソナリティを勤めている旅番組です。タイトルは…《るんるん♪放浪記》だったかしら？」

燐子「た、旅番組…ですか…？」
紗夜「最初は歌番組を希望したのですが、枠が無いので旅番組で【偶然出会った実力派バンド】という形で演奏させて頂けるそうです。」
友希那「歌番組じゃないのが少し残念だけど、これはＲｏｓｅｌｉａにとって絶好のチャンスよ!!」
友希那「私達が只の学生バンドじゃないことを証明してみせるわ!!」

・・・・・・・・・

収録当日
羽沢珈琲店
あこ「う～…緊張するねりんりん…！」
燐子「う、うん…。」ブルブル
リサ「燐子、めっちゃ身体震えてるけど大丈夫？」
燐子「し、心配…あり、ません…。」ブルブル
リサ「全然大丈夫じゃなさそうなんだけど…。」
友希那「燐子、これはライブの前フリだと思えばいいのよ。いつも通りの自分を保っ

て。」
燐子「」チーン
あこ「あ、りんりんがフリーズしちゃった!?」
リサ「ちょっと友希那～？」
友希那「私の所為じゃ無いわよ!!」

ギャーギャー!!

紗夜「すいません羽沢さん、騒がしくしてしまって。」
つぐみ「いえ、これ位なら全然大丈夫ですよ。」
紗夜「湊さんの言う通り、ライブの前フリだと思えば何も問題無いはずなのに。」
つぐみ「テレビの収録、しかも全国放送ですから緊張しても仕方ないですよ。私もさっきから緊張して手が震えちゃって…。」
紗夜「あら、それはいけませんね。」ギュッ
つぐみ「さ、紗夜さん!?急に手を握ってどうしたんですか!?」
紗夜「こうすると緊張が解れると今井さんが仰っていたので、真似してみたのですが…どうでしょうか？」

つぐみ「あ…手の震え、止まりました！」
紗夜「それはよかったです。これで撮影中も大丈夫かと。」
つぐみ「はい！ありがとうございます！」

・・・・・・・・・

１０分後…。
つぐみ「あ！日菜先輩が沙綾ちゃんのお店から出てきましたよ！」
紗夜「いよいよですね。」
友希那「みんな準備はいいかしら？」
リサ「オッケーだよ友希那！」
あこ「バッチリです！」
燐子「」
リサ「ちょ、燐子!!!もうヒナが来ちゃうから起きて!!!」ユサユサ
燐子「！」ハッ
燐子「す、すいません…私、寝ちゃってましたか？」
リサ「うん、寝てたというより気絶してたけど。」

あこ「スタンロッドの静電気モード使っても起きないから心配したよりんりん～！」
リサ「ん!?その警棒持って来てたの!?」
あこ「リサ姉の為なら当然だよ！りんりんと紗夜さんもポケットに銃が…。」
リサ「３人共？それ今すぐアタシの鞄に仕舞って？」
紗夜「待ってください、それでは即応性に問題が…。」

「もうクッキー焼いてあげないよ？☆」

紗夜「宇田川さんと白金さんも早く鞄に仕舞いましょう。今回ばかりは仕方ありません…。」
あこ「リサ姉のクッキーが食べれなくなるのは嫌だもんね…。」
燐子「あのクッキーが…無くなったら…Ｒｏｓｅｌｉａは…。」
リサ「掌返し早っ!?ってかアタシのクッキーそんな重要アイテムだったの!?」

チリンチリン♪

日菜「こんにちはー!!」

つぐみ「い、いらっしゃいませ！」
日菜「やっほーつぐちゃん！今日はよろしくね！」
つぐみ「はい！テレビの収録は初めてですけど、お店の魅力を伝えられる様に頑張りますね！」
日菜「この番組は基本ゆるゆるだし、今日はあたしの地元特集だからいつも通りで大丈夫だよ！」
日菜「じゃあ、早速つぐちゃんのるん♪ってするメニューを……あ!!おねーちゃん!!」
紗夜「…1人で来るなんて珍しいわね、日菜？」

※Ｒｏｓｅｌｉａメンバーは偶然居合わせたという設定です。

日菜「今日はねー、あたしの番組の収録に来たんだ！」
紗夜「そうなの？私はＲｏｓｅｌｉａの皆さんとライブの打ち合わせ中だったのよ。」
日菜「ふーん…ところで、さっきから友希那ちゃん達がピクリとも動かないけど…どうしたの？」
紗夜「え？」チラッ
友リあ燐「「「「…。」」」」

紗夜（ちょっと皆さん！収録始まってますよ！）ヒソヒソ
友希那（何を話すか全く決めてなかったわ…。）
リサ（いざ本番になったらめっちゃ緊張して喋れない…。）
あこ（カッコいい台詞がサッパリ思い浮かばない…！）
燐子（）チーン
紗夜（白金さん!?また気絶してますよ!!起きてください!!）ユサユサ

・・・・・・・・・

リサ「いや～ごめんねヒナ？」
日菜「気にしなくていいよ！こういうロケだとよくあるからさ～。」
あこ「ひなちんからプロの余裕を感じる…！」
日菜「あたしはいつものノリでやってるだけだよ？それに今日から煩いディレクターも居なくなったし楽勝楽勝！」
Ｒｏｓｅｌｉａ「「「「居なくなった？」」」」
燐子「そういえば、そこのディレクターさん…昨日の放送で…映ってた人…じゃないですね？」

リサ「何かあったのヒナ？」
日菜「クビになったんだって。テレビ局で女の子を盗撮してた変態だよ。」
リサ「うわぁ…。」
友希那「下衆の極みね、そんな奴がリサに近付かずに済んでよかったわ。」
紗夜「全くです。」
あこ「じゃあ今頃、そいつは檻の中なんだねひなちん？」
日菜「それがさ～、クビにしただけで警察呼ばなかったんだって。偉い人って頭がパンパカパーンなのかな？」
あこ「ええ!?じゃあこの辺に居るかもしれないじゃん!!」
リサ「ちょ、あこ!!声デカいって!!」
紗夜「それだと、私達や番組スタッフに八つ当たりしに来る可能性も有りますね。」
友希那「念の為、戸山さん達にもメールで伝えておくわ。」

リサ「…あのさぁヒナ？今ってカメラまわってるんだよね？」
日菜「そうだよ？」
リサ「さっきから放送出来ない会話しかしてない気がするんだけど大丈夫なの…？」
日菜「へーきへーき！ババって編集してもらえば大丈夫だよきっと！」

リサ「そういうモンなの…？」
つぐみ「あ、あの～…新作ケーキお持ちしました～。」
日菜「あ！つぐちゃんのケーキ!!」
リサ「へぇ！可愛いケーキじゃん！」
日リ「「それじゃ、いっただっきまーす!!」」

・・・・・・・・・

３０分後…。
紗夜「日菜、もうすぐスタジオの予約時間よ？」
日菜「えぇ～？まだつぐちゃんと話し足りないよ～！」
紗夜「また今度来ればいいじゃない。それに羽沢さんと同じ学校なのだから、休み時間にだって会えるでしょう？」
日菜「う～…分かったよおねーちゃん…。」
紗夜「つぐちゃん、続きは明日学校で話そ？」
つぐみ「はい！私も楽しみにしてますね日菜先輩！」

リサ「友希那～？さっきからずーっと何話し合ってたの？またアタシ関係？」
友希那「そうよ、日菜の言っていた盗撮魔と鉢合わせした時の手順を決めていたの。」
リサ「ああやっぱり…今日はテレビカメラに撮られてるんだから、普通の女子高生で居て欲しいなぁ…。」
友希那「私だって本当はそうしたいわ。けれど、あんな奴がウロついてる可能性がある以上、手を抜く訳にはいかないの。」
リサ「…怪我とかホントに気を付けてよ？」
友希那「大丈夫よ、問題無いわ。」
リサ「その台詞だとフラグ立ってない!?」

燐子「…!?」クルッ

紗夜「白金さん？」
あこ「ん？どうしたのりんりん？」
燐子「背後から…視線を感じました…スタッフさんじゃない…別の誰か…！」
紗夜「まさか、本当に盗撮魔が八つ当たりに来たのでしょうか？」
あこ「あこ達、さっきリサ姉に武器没収されちゃって手ぶらですよ!?」

あこ「紗夜さんは素手でも大丈夫そうですけど、あことりんりんは…。」
紗夜「困りましたね、今日は日菜も丸腰ですし今井さんを説得する訳にも…私と湊さんで何とかするしか…。」

日菜「友希那ちゃん、リサちー、ちょっといい？」
友リ「「??」」
日菜「さっき話した変態ディレクター、あたし達をロックオンしてるよ。」
リサ「え、マジ!?」
友希那「全く、これから演奏の収録なのに気が散るわね。」
日菜「でも大丈夫！あたしがコッソリるんっ♪てする道具持って来たから！」ゴソゴソ
リサ「ちょっとヒナ？カメラの前で服の中を弄るのやめなさい…。」
日菜「じゃーん！日菜ちゃん特製アロマスプレー！」
リサ「アロマスプレー？」
日菜「リサちーが持ってる唐辛子スプレー※のアロマ版…って感じかな？」

※万が一に備え、友希那が強引に持ち歩かせてます。

日菜「でも、唐辛子より威力がググっと上げてあるから軽くシュッとすれば相手はギュイーンってなるよ！」
友希那「日菜の表現だと分かり辛いわね。」
日菜「最期はもがき苦しんで死ぬよ！」
リサ「死ぬ!?も、もうヒナったら～冗談キツイって～！」

日菜「…あたし冗談なんか言ってないよ？」ハイライトオフ

リサ「ヒッ!?」
日菜「もしアイツがリサちーに近付いたらコレで贅肉をジュワァって…。」
リサ「ストップストップ!!!聞いてるだけで恐ろしいからもう止めて!!!」
日菜「え～？ここから盛り上がるのに～。」
リサ「そんな危険なモノ絶対使っちゃダメ!!ねえ友希那も何か言ってやってよ!!」
友希那「え？ええ…日菜？流石にそれは容認出来ないわ、今すぐそれを渡しなさい。」
日菜「…ちぇ、リサちーと友希那ちゃんがそこまで言うなら仕方ないや。」スッ
友希那「物分かりがよくて助かるわ。」

リサ「危うくヒナが殺人犯になるところだったよ…。」
友希那「後で親衛隊の掟に書き加えておかないといけないわね。〝人殺しはダメ〟と。」
リサ「それよりもヒナのカウンセリングが必要だと思うんだけど？」
友希那「じゃあ紗夜に頼んでおきましょう。普通のカウンセラーじゃ日菜の相手になれるとは思えないわ。」
リサ「ヒナ、辛い事や悩み事があったら何時でもアタシ達が聞いてあげるから！人としての道を踏み外す前に！」
日菜「う、うん…ありがとうリサちー！」

・・・・・・・・・

商店街　路地裏
元ディレクター（以下、元ディ）「チクショウ…何故だ？カメラの配置は完璧だったハズだ…。」
元ディ「辛うじてムショには行かずに済んだが、俺みたいな中年に懲戒解雇は死刑同然…。」

元ディ「もうおしまいだ…ん？彼処に居るのは…。」
元ディ「あっ！アイツはパスパレの氷川！」
元ディ「後ろに居るのは放浪記の連中、取り巻きのガキ共は見た事ねーし新人か？…クソッ、俺がこんな惨めな思いをしてんのにあのクソガキ共は…!!」
元ディ「…それにしても氷川の取り巻き、中々可愛いじゃねぇか…。」
元ディ「特に黒髪の奴は立派なモン持ってる…ギャルっぽい奴も中々…。」
元ディ「…。」

元ディ「もう俺に失う物は無え…最後に一発ヤってやるか…！」ニヤッ

不穏な影　後編

こんにちは。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです。
何だか嫌な予感がするけどアタシ達はテレビ収録の為にＣｉＲＣＬＥにやって来ました。

ＣｉＲＣＬＥ
まりな「いらっしゃ～い！」
友希那「こんにちはまりなさん。予約してるＲｏｓｅｌｉａですけど…。」
まりな「は～い、じゃあ今日は２番の部屋ね！……ん？日菜ちゃんも？それに後ろの人達は？」
日菜「あれ～？今日あたしの番組ロケあるって聞いてないの？これからおねーちゃん達の演奏をバシッと撮るんだよ！」
まりな「え!? 嘘!? ロケあるなんて聞いてないよ!? も～!! オーナーったら～!!」
日菜「あははは！今のまりなさん、彩ちゃんみたいで面白ーい！」

まりな「からかわないでよ日菜ちゃん～！」
リサ「あ、あはは…ヒナは相変わらずだな～。」
紗夜「全く日菜ったら…。」

・・・・・・・・・

ＣｉＲＣＬＥ　スタジオ内
友希那「準備はいいかしら？」
リサ「いつでもいけるよ！」
友希那「じゃあ早速…。」
あこ「ちょっと待って友希那さん!!あこ、何の曲やるか聞いてないですよ!!」
燐子「私も…聞いてません…。」
紗夜「私もですね。」
友希那「そういえば決めてなかったわ…。」
リサ「決めてなかったんかい!!」
友希那「…。」ゴソゴソ
友希那「リサ、この５枚から好きなのを選んで頂戴？」

リサ「何このカード？」
友希那「それぞれに演奏する曲名が書いてあるわ、カラオケで迷った時の余興も兼ねて作ったの。」
リサ「友希那カラオケなんて行くんだ…。」
友希那「戸山さんに誘われて時々行くのよ。」
リサ「へぇ～、じゃあコレで。」ヒョイッ
〝陽だまりロードナイト〟
リサ「お、アタシのテーマ曲。」
友希那「決まりね、始めましょう。」

・・・・・Ｒｏｓｅｌｉａ演奏中・・・・・

友希那「…どうだったかしら？」
日菜「みんなすっごくカッコ良かったよ!!るんって来た!!」
リサ「相変わらずヒナの表現はよく分からないけどありがとね!??」
日菜「これでＲｏｓｅｌｉａも有名人だね!!パスパレとのコラボ待った無し!!」
紗夜「音楽の方向性が全く違うのにコラボって…。」

リサ「そもそもＲｏｓｅｌｉａが人気出るの前提だし、全国デビューしてもすぐには無理じゃないかな～？」
あこ「えぇ～！あこもデビューしてパスパレとコラボしたいよ～！」
リサ「そうは言ってもねぇ。」
友希那「あこ？そんな理由で全国デビューしても行き詰まるだけよ？」
燐子「あこちゃん、私も…まだデビューする時…じゃないと思うよ…？」
紗夜「そもそもＲｏｓｅｌｉａが目指しているのは頂点…それを忘れては駄目よ、宇田川さん？」
あこ「そ、そうでした…。」

・・・・・・・・・

日菜「じゃーねー!!みんなー!!」ブンブン
リサ「はいばいヒナ～！今日はありがとね～！★」フリフリ
あこ「じゃあね～ひなちん！」ブンブン
友希那「予定通りに終われたわね。」
紗夜「そうですね、後は…。」チラッ

燐子「ストーカーの始末…ですね…。」
リサ「あ～そうだった、ストーカーの事すっかり忘れてた…。」
リサ「ってか燐子？最近物騒な発言多くない？」
燐子「気の所為…だと思います。」
リサ「いやいや、アタシの知ってる燐子は〝始末〟をそんなふうに使わｎ「気の所為です。」ニコォ
リサ（怖っ!?）
燐子「友希那さん…今、応援に来られそうな方は…？」
友希那「駄目ね、全員用事があるそうよ。」
燐子「では今井さん…預けた武器の使用は…。」
リサ「だ、ダメ!!今日いっぱいは返さないよ!?」
燐子「そうですか…ではこうしましょう…。」プルルッ　ガチャ
燐子「あ、もしもし……ええ……直ぐにお願い出来ますか……？」
あこ「りんりん？誰に電話してるの？」
リサ「き、きっと警察だよ！」
燐子「友人が全て片付けてくれる…そうです♪」
リサ「警察じゃなかったー!!」

燐子「今回のストーカーは…正直、友希那さんや氷川さんなら…素手で勝てる相手ですけど…。」
燐子「その方が…Ｒｏｓｅｌｉａの大ファンで…特に今井さんがお気に入りだとか。」
リサ「へ？アタシ？な、なんか照れるなぁ…／／／」

５分後……。
？「お待たせー！」
燐子「ご紹介します…私の友人で、協力者のＹさんです。」
Ｙ「初めまして！今日はＲｏｓｅｌｉａの為に頑張りまーす！」
あこ「な、何かテンションの高いリサ姉って感じがする…！」
紗夜「というか、今井さんそのものでは…？」
友希那「紗夜、それは誰かさんの事情があるのよ。」
リサ「メタいよ友希那…。」
Ｙ「こらこらー！アタシの事は深く突っ込んだらダメだよ？怒られちゃう！」
作者「そうだそうだ！」
友希那「ほら、２人もこう言ってるじゃない。」
リサ「今の誰!?」

紗夜「えーと、Yさんでしたか？白金さん曰く、お一人で全て片付けるとお聞きしてるのですが？」
Y「なになに心配してるの？大丈夫！こう見えても相手を再起不能（瀕死）にするの得意だから！」エッヘン
紗夜「再起不能（戦意喪失）ですか…。」
リサ「んん？互いの解釈おかしくない？」
Y「全く、愛しのリサを狙うなんて……あのおじさんはアタシを怒らせた!!」ワナワナ
Y「捻り潰してやる!!!」ゴゴゴゴゴ
友希那「す、凄まじい怒りのオーラね…！」
Y「ちゃちゃっと終わらせるから皆待っててね！」スタスタ
あこ「頑張ってYさん!!」

・・・・・・・・・

路地裏　物陰
元ディレクター（以下、元ディ）「クソッ、アイツら俺に気付くの早過ぎだろ！やっと

カメラが居なくなったのにこっちをジロジロ見てばっかで動きやしねぇ…。」
元ディ「…ん？何だあの姉ちゃん？アイツらの知り合いか？」
元ディ「しかもこっちに来たぞ…丁度いいや、あの姉ちゃんも捕まえてヤっちまおう！」

Y「やあおじさん！ちょっとアタシとオハナシしようよ！」
元ディ「奇遇だねお嬢さん、俺も君とお話ししようと思ってたんだ。」
Y「そうだったんだ～！じゃあ早速…。」
元ディ「隙あり！」バッ
Y「おおっと！」サッ
元ディ「何っ!?」
Y「そんな動きでアタシを捕まえられると思った？」クスクス
元ディ「このアマ…舐めやがってぇ!!このっ!!このっ!!」バッ　バッ
Y「アハハハ！遅いよおじさ～ん！」サッ　サッ
元ディ「ゼェ…ゼェ…。」
Y「もうお終い？降参するなら今の内だよ？」
元ディ「誰がテメェなんか…テメェなんかに降参するかよお!!」

Y「降参しないかぁ～…それは残念！」

「地獄を見せてあげるよ★」

友希那「加勢しなくて大丈夫かしら？」
紗夜「随分と意気揚々でしたけど何か策が有るのでしょうか？」
リサ「だ、大丈夫だよ…多分。」
紗夜「ですが路地裏に入ってからもう5分以上経ってます。そろそろ様子を…。」
ギャアアアアアア!!?

Ｒｏｓｅｌｉａ「「「「　!!　」」」」
リサ「な、何!?」
紗夜「今のはストーカーの方ですね。」
あこ「じゃあ、Ｙさんが勝ったんですね!?」
友希那「そのようね。」
燐子「追い討ちをかけて…完璧なトドメを…♪」
リサ（この状況でよくそんなセリフ出るなぁ…。）

路地裏　物陰
Ｙ「あっ、みんな～！仕留めたよ！」
あこ「Ｙさん!!大丈ｂ…うわぁ…。」
燐子「Ｙさん！…派手にやりましたね…。」
リサ「ストーカーの腕が逆向きに…。」
紗夜「足や胴体もベコベコですね、辛うじて息は有りますが。」
友希那「あれじゃ再起不能ね、死ぬまで寝たきりかも。」
友希那「…まあでもギャグ小説だから何とかなるでしょう。」
リサ「メタい事言っちゃダメだよ友希那!?」

Y「あれ？もしかしてやり過ぎた？」
リサ「やり過ぎってレベルじゃない気が…。」
Y「でもアタシ悪くないよ！降参するチャンスを拒否ったおじさんが悪い！」
リサ「えぇ……ってかこのストーカーどうするの？」
友希那「救急車ぐらいは呼んであげましょう。私達は偶然通りがかった通行人という立場で。」
紗夜「ただ、ストーカーが快復した後はどうしましょうか？」
Y「大丈夫！〝記憶飛ばし〟は上手くいったハズだし、もし警察に嗅ぎ付けられても燐子が何とかしてくれるから！」
燐子「うふふ…。」ニッコリ
あこ「りんりんならバーン！と消しちゃうもんね！」
紗夜「白金さんならその筋にも通じてますし安心ですね。」フフフ
リサ「ねえ友希那ぁ!!アタシ達捕まったりしないよね!?ね!?」ギュゥゥゥゥ
友希那「く、苦しいわリサ…。」ギュゥゥゥ

・・・・・・・・・

ストーカー搬送後
氷川家　紗夜の部屋
友希那「それで、貴女は一体何者なの？」
Ｙ「Ｒｏｓｅｌｉａが好きなただの一般人だよ？まあ以前は声優とかバンドやってたけど。」
リサ「全然隠す気無いじゃん…。」
Ｙ「実名伏せとけばセーフだよセーフ！」
Ｙ「因みにアタシの元仕事仲間も全員燐子の協力者だからね～、怒らせると怖いよ～？」
Ｙ「酒豪、ワイヤー使い、炎の守護者、ナンパ好き…。」
リサ「肩書きがおかしいよ!?声優業界どうなってるの!?」
紗夜「元ネタが分からない方が何名かいらっしゃるのですが…。」
Ｙ「ええっとね、酒豪はまあ分かると思うけどワイヤー使いは紗夜のせいｙ……ファンだよ！」
紗夜「あ、そうだったんですね。でも何故ワイヤーなのですか？」
Ｙ「さあ？」
リサ「知らんのかい！」

Y「で、炎の守護者は蘭の知り合いでナンパ好きは自称ポピパの一員。」
友希那「美竹さんの知り合い？もしかしてさk…。」
リサ「はいダメだよ友希那!!それ以上は怒られる!!」ギュムッ
友希那「にゃにすうのよりしゃ（何するのよリサ）。」モゴモゴ
あこ「Yさん!!あこと友希那さんの知り合いは!?」
Y「知らん!!設定が無い!!」
あこ「ええーーー!?そんなーーー!!」
あこ「うえええええん!!!りんりーん!!!」シクシク
燐子「だ、大丈夫だよあこちゃん……きっとその内、出てくるから……。」ナデナデ
Y「ちょちょちょ…何もそんなに泣かなくてもいいじゃない…。」
友希那「後で作者をシメておくわ…。」ハァ
リサ「理不尽な暴力が作者に…。」

～～～～♪♪

Y「ん？電話だ……はいもしもし～？」
Y「…え!?財布を忘れて会計が払えない!?今何処のお店に居るの!?」

Y「〇〇って居酒屋だね？じゃあ今から行くから後で返してよ～？」ピッ
Y「ゴメンみんな!!さっき言ってた酒豪の子が財布忘れて困ってるらしいから今日はもう帰るね!!」
紗夜「あら、お礼に夕食でもと思ったのですが…残念ですね。」
燐子「今日は来て下さって…ありがとうございました…。」ペコリ
Y「いいってことよ！リサの為なら何時でも駆け付けるからね！」
あこ「グスンッ…。」
Y「も～～何時まで泣いてるの！アタシからも〝お願い〟しておくから、ね？」ヨシヨシ
あこ「あ、ありがとうYさん…。」
友希那「次に会ったら是非手合わせ願うわ。貴女の戦い方にとても興味があるの。」
Y「オッケー！アタシも楽しみにしてるよ！」
Y「リサ、変な人に出会ったら直ぐに助けを呼ぶんだよ？アタシ達が徹底的に懲らしめてあげるから！」ギュッ
リサ「え？あ、うん…。」
Y「じゃ、まったね～!!」
ガチャッ　バタン

リサ「つ、疲れた～…。」
友希那「この話を改変するのに一体何日掛かってるのよあの馬鹿作者は。」ハァ
燐子「友人に……マーベリックミサイルでも……撃ち込んでもらいましょうか？」
リサ（もう突っ込む気が起きない…。）グッタリ

ガチャッ　タダイマー！

紗夜「日菜が帰って来ましたね。」
友希那「じゃあ私達はお暇させてもr…」
ガチャッ
日菜「おねーちゃん!!駅前の屋台でるんっ♪てするポテト買って来たよ!!」
紗夜「あら美味しそう…って、これ幻のポテトじゃない!!!」
リサ「幻のポテト？」
紗夜「店主がとても気まぐれで、何時、何処で営業するか全く分からないポテト屋台の傑作です!!」
紗夜「折角手に入ったので皆さんもどうぞ！」モグモグ
リサ「もう食べてるし…。」

友希那「次回もお楽しみに。（カメラ目線）」
あこ「友希那さ～ん？誰に喋ってるんですか？」モグモグ
友希那「画面の向こうの人達よ……あ、結構美味しいわねこのポテト。」モグモグ

羽沢珈琲店の風景

こんにちは。
Ａｆｔｅｒｇｌｏｗのキーボード担当、羽沢つぐみです。
今日はクリスマスなのでお店もクリスマス仕様！
夜にはＡｆｔｅｒｇｌｏｗのみんなとクリスマスパーティーをする予定なのですが……。

蘭「ちょっと湊さん！パーティーの時間と場所が一緒ってどういう事ですか！」
友希那「仕方なかったのよ、夜しか来れなかったり年末に予定があるメンバーが居て他に場所も無いから。」
蘭「だからってスペース共有してまでやらなくてもいいじゃないですか！」
友希那「賑やかになって良いでしょう？」
蘭「あたしは嫌ですよ！つぐも何でＯＫしちゃったのさ！」
つぐみ「ご、ごめんね蘭ちゃん…紗夜さんに土下座で頼まれてつい…。」
蘭「土下座って何やってんのあの人!?」

モカ「ま～ま～良いじゃない蘭～？あたしは賑やかになって楽しいと思うよ～？」
蘭「良くない！湊さんが居たら悪い意味で賑やかになるだろうし！」
友希那「ちょっと？それはどういう意味かしら？」
蘭「最近、湊さんの周りが騒がしいからですよ！昨日だって…。」

・・・・・・・・・

前日
羽沢珈琲店
つぐみ「友希那先輩！これ3番です！紗夜さんは8番の片付け！イヴちゃんは会計を！」
友希那「分かったわ。」
紗夜「今行きます！」
イヴ「分かりました！」
つぐみ「やっぱりこの時期は忙しいなぁ…でも、頑張らなきゃ！」
カランコロン♪
つぐみ「あ、いらっしゃいませ！こちらのお席へどうぞ！」

男性客「…。」スタスタ
男性客「えーと、このクリスマスチョコケーキとブレンドを…。」
つぐみ「クリスマスチョコケーキとブレンドコーヒーですね！かしこまりました！」

・・・・・・・・・

つぐみ「お待たせしました！クリスマスチョコケーキとブレンドコーヒーです！」
男性客「どうも…。」
つぐみ「ごゆっくりどうぞ！」
男性客「…。」

１０分後
つぐみ「やっとお客さんの入りが落ち着きましたね…。」
紗夜「そうですね…つぐみさんは今の内に休憩に入ってください。後は私達がやっておきますので。」
つぐみ「ありがとうございます紗夜さん！じゃあ休憩行ってきｍ」

「おいそこの店員!!ちょっとこっち来い!!」

つぐみ「ひぇっ!?わ、私ですか……?」ビクビク
男性客「お前だよ!!!さっさとしろ!!!」
つぐみ「は、はい!!すぐ行きますね!!」スタスタ
イヴ「あんなに怒鳴ってどうしたのでしょうか…?」ヒソヒソ
紗夜「恐らくクレーマーでしょうね…全く、困ったものです。」ヒソヒソ

つぐみ「えーと…どうかなさいましたか…?」
男性客「このケーキに虫が入ってたんだよ!!!危うく口に入るとこだったじゃねえか!!!」バンッ!!!
つぐみ「っ!?も、申し訳ありません!!」ペコッ
男性客「ったく、折角のクリスマスイヴが台無しになったぞ!!!どうしてくれんだ!!!」
つぐみ「本当に申し訳ありません!!」
男性客「さっさと代わりのケーキを持って来い!!!あと代金もタダにしろ!!!」
つぐみ「か、かしこまりました!!すぐにお持ちしますので!!」スタスタ
男性客「おう、あくしろよ!!」ニヤリ

男性客（やっぱり〝コレ〟が一番楽だな、簡単に憂さ晴らし出来てタダ飯が食える……最高だぜ！）

「ちょっとお客様？」

男性客「ああ？何だよ？」
友希那「その虫は本当にケーキから出てきたのでしょうか？」
男性客「そうだよ!!俺の事を疑ってるのか!!?」
友希那「そうですが？」
男性客「何だとぉ!!?じゃあ証拠でもあるのかよ!!!」
友希那「あるわよ？貴方のカバンの中に。」ゴソゴソ
男性客「おい!!!勝手に人のカバンを漁るんじゃｎ」
友希那「煩い。」バシッ
男性客「痛ぇ!!」
友希那「…見つけたわ。」

友希那「白状しなさい、この虫入りケースが証拠よ？」スッ
男性客「偶々持ってただけだ!!!」
友希那「本当かしら？」
男性客「まだ疑うってのか!!?」
友希那「…もう一度聞くわ、本当にやってないのね？」
男性客「やってない!!!いい加減にしねーとぶん殴るぞ!!?」
友希那「…だそうですよ？店主さん？」
つぐみ父「中々強情なお客様だね……友希那ちゃん、ちょっとこの商店街の〝やり方〟を教えてあげなさい。」
つぐみ父「皆様、少しお騒がせしますがご了承を。」
周りの客（´・ω・）コクリ
男性客（な、何だこの店!?）
友希那「さあ、いくわよ？」ガシッ
男性客「離せっ!!何しやがるっ!?」ジタバタ
友希那「でりゃあああああああ!!!」ブンッ
男性客「うわあああああああああ!!!?!!!」

ドシーン!!

男性客「いてええええええええ!!!!」

友希那「（クレーマーには）この手に限るわ。」

パチパチパチパチ

常連客1「ヒュー！やるぅ!!」

常連客2「つぐみちゃんを泣かせる奴は…罰を受ける…。」

常連客3「これで腐ったガスも抜けるだろう。」

常連客4「クレーマーのクソったれが！くたばりやがれ！」

常連客5「ソ連式の方が能率的だ。」

カランコロン♪

巴「つぐ！遊びに来t…なんだこりゃぁ!?」

モカ「お～やる事が派手ですな～、ひーちゃんの胸みたい。」

ひまり「それどういう意味!?」
蘭「とりあえず、警察呼んだ方がいい？」

・・・・・・・・・

警察官1「よ～し、中に入るんだ。」
警察官2「さあ乗った乗った！」
男性客「チクショウ！覚えてろ！」

バタンッ　ブウーン……

つぐみ父「大丈夫だったかいつぐみ？」
つぐみ「う、うん、私は大丈夫だよ。」
つぐみ父「それはよかった…。」ホッ
巴「あの～湊さん？何でこんな騒ぎに？」
友希那「クレーマーがケーキに虫を仕込んで代金を踏み倒そうとしたのよ。」
巴「な、なるほど、そりゃクレーマーが悪いですね…。」

蘭「いやいや！確かにクレーマーが悪いけど、湊さんの暴力沙汰もダメだと思うんですけど！」
友希那「あれはいいのよ、条例でクレーマーには最後通告をした上で抵抗された場合は制圧行為が許されるの。」
蘭「そんな条例あったんですか!?」
紗夜「最近出来た条例なので知らなくても無理はありません。ローカル過ぎたのかニュースにも殆どなってませんでしたし。」
イヴ「最後通告…つまりブシの情けというやつですね！」
蘭「ちょっと違うような…。」
ひまり「世の中って私達が知らない内に変わってるんですね…。」
モカ「ひーちゃんの胸が違反になる日もいつになるやら。」ウンウン
ひまり「巴～!!モカがまた胸の話してる～!!」
巴「あっははは!!（。∀。）」
ひまり「笑ってないで止めてよ～!!」

・・・・・・・・・

蘭「…って感じで大騒ぎだったじゃないですか!!」
友希那「そう言われてもアレはクレーマーの所為であって、私は何も悪くないわ。」
蘭「とにかく! 湊さん達は他の場所でパーティーしてください!今夜はあたし達が……。」チラッ
モカ「…。」ジーッ
蘭「何さモカ?そんな目で見つめてもあたしは…。」

モカ「マインドコントロール」ボソッ

蘭「……。」
友希那「美竹さん?」
蘭「…湊さん、今回は一緒にパーティしてもいいですよ?」
つぐみ「え!?急にどうしたの蘭ちゃん!?」
友希那「何だか不自然な間があったけれど、ありがとう美竹さん。」ニコッ
蘭「ど、どういたしまして…。」カァァ
モカ「あ〜! 蘭が照れてる〜!」ニヤニヤ
蘭「照れてない!!」

モカ（また能力使っちゃった～…まあ今回は仕方ないよね～？）
モカ（蘭にはもうちょっと素直になって欲しいですな～。）

この後、Ａｆｔｅｒｇｌｏｗと親衛隊メンバーで滅茶苦茶クリスマスパーティーした。

巴「そういやリサさん来てませんけど、何か用事でもあったんですか？」
友希那「そ、そうよ！リサは外せない用事が出来たみたいで…。」
友希那（そうだったわ！今回はあくまでも親衛隊の集まり……大晦日に穴埋めは約束したけれど、もしバレたりしたら……。）タラー・・・

一方その頃…。
リサ「クリスマスなのに皆んな用事があるなんてツイてないな～…。」
ピンポーン♪
リサ「ん？誰だろう？」

次回、思わぬ刺客!?

ひとりじゃないんだから！

こんにちは…。
Ｒｏｓｅｌｉａのベース担当、今井リサです…。
今年はＲｏｓｅｌｉａの皆でクリスマスパーティーやろうと思ってたのに全員用事があるんだって…。
代わりに大晦日に忘年会やる事になったけど、クリスマスなのにまさかの予定無し…
ｏｒｚ

ピンポーン♪

リサ「ん？誰だろ？」
リサ「はーい。」ガチャッ
Ｙ「やっほーリサ！遊びに来たよ！」
リサ「え!?Ｙさん!?どしたの急に??」
Ｙ「いや～風の噂でリサがクリぼっちしてるって聞いたからさ～。」

リサ「クリぼっち……。」ガーン
Ｙ「だからリサが寂しくならない様に来てあげたの！」フンスッ
リサ「そ、そっか、ありがとう……ところで隣の人は誰？Ｙさんの友達？」
Ｙ「お～そうだった！Ａしゃん、自己紹介お願いしま～す。」
Ａ「はじめましてリサちゃん、私はＡ。声優をやってＹちゃんとは元仕事仲間だよ。」
リサ「どうも、Ｒｏｓｅｌｉａのベースやってる今井リサです……ところでその伏字は大丈夫なの？」
Ａ「大丈夫です……バレなきゃセーフ、ですから……。（燐〇ボイス）」
リサ「その声で言ったらモロバレじゃん!?」
Ｙ「まあまあ細かい事は置いといて、ここじゃ寒いし中で話そっか？差し入れも持って来たし。」
リサ「お～こんなに沢山持って来たの？サンキュー！さ、２人共上がって上がって！」
Ｙ＆Ａ「「おじゃましまーす。」」

リサの部屋
Ｙ「ここがリサの部屋か～！」
リサ「まさか来ると思ってなかったから散らかってるけどね～。」
Ａ「いいよいいよ！こっちもアポ無しで来ちゃったし。」ゴソゴソ
Ａ「お菓子やジュース色々持ってきたから好きなの持ってって！」
リサ「じゃあ遠慮なく……ってこれ全部お酒じゃん!?」
Ａ「おっと、これは私とＹちゃん用だった……リサちゃんのジュースはこっちね。」スッ
リサ「ちょちょちょ!!まさか２人共ここで飲むつもり!?」
Ｙ＆Ａ「「当然!!」」
リサ「真昼間から女子高生の部屋で晩酌しちゃいけません!!」
Ａ「それはつまり、他の部屋ならＯＫって事だね？」ズィ
リサ「話を逸らさないでよ～!!」
Ｙ「諦めた方がいいよリサ？Ａしゃんはお酒の事になると引かないからさ～。」
リサ「えぇ……まあリビングとか庭で飲まれても困るし、今回は特別だよ？」
Ａ「っしゃあ!!それじゃ早速!!」プシュッ
リサ「開けるの速っ!?」

A「ゴクッゴクッ……ぷは～！昼間に飲むビールは一味違うね！Yちゃんもホラホラ！」

Y「じゃあアタシもビール貰いま～す！」ヒョイッ

リサ（何だこの光景は…。）

・・・・・・・・・・

A「……でね、その年の3月くらいだったかな、突発性難聴っていう病気になっちゃったの。」

A「この頃はYちゃんの引退が近付いてたし、すぐ治療したから公にしなかったんだけど…。」

A「お医者さんにこのままバンド続けるのは難しいって言われてねぇ…。」

リサ「え？治ったんじゃないの？」

Y「突発性難聴って一度出ると完治は難しいらしいよ、だから大きな音を出すバンド活動はリスクがすごく高いんだって。」

A「ゲームでもリアルでもライブするのが売りの1つだったから、このままじゃダメだし私自身にも……って事でお偉いさん達と話し合って卒業する事にしたんだ……。」

リサ「そっか……。」
A「幸い声優の仕事は今も続けてるけど……悔しいよ……私があの子としてステージに立てなくなったのは……。」
A「あの子を……誰にも渡したくなかったのに……っ!!」グスッ
リサ「…。」ギュッ
A「リサちゃん…？」
リサ「アタシはただの高校生だから、慰めるぐらいしか出来ないけれど…。」
A「ありがとうリサちゃん、お陰で心が少し晴れた気がするよ。」
リサ「本当は魔法でも使って病気を治してあげたいけどね…。」
A「あはは…でも治ったとしても私の戻れる場所はもう無いから。今は後任の子が全力を出せる様に激励するだけだよ。」
A「……暗い話はこれぐらいにしておこうか。今日はリサちゃんの為に来たんだし盛り上がる話をしなきゃね～！」グビグビグビグビ
Y「流石Aしゃん、切り替えが速い！」グビグビ
リサ「ちょっと！そんなペースで飲んだらダメでしょ！」
Y「な～に、度数が低いから飲んでもヘーキヘーキ！」グビグビ
A「ビールはジュースみたいなモンだから心配なーし！」グビグビ

リサ「そ、そうなの？じゃあいいの…かなぁ？」ゴクッ

・・・・・・・・・・

リサ「……でね、キレた友希那がクレーマーにプロレス技決めちゃったらしくて。」
Y「やる事が派手だねぇ。」ケラケラ
A「どうしてトドメがプロレス技なの？首をへし折ればスッキリするのに。」グビグビ
Y「も～～Aしゃんったら野蛮人♪」
A「……今なんて言った？」ニッコリ
Y「あ、いえ……スンマセンデシタ……。」
リサ（Yさんもストーカーをボコボコにしてたし、どっちが野蛮人やら…。）ヤレヤレ
リサ「そういえばさ、Yさんって燐子と仲が良いんだよね？」
Y「うん。」コクッ
リサ「燐子から友希那達が今何やってるか聞いてない？友希那なんてアタシが朝起きる前に出掛けてたみたいでさ～。」
Y「あ～……。」メソラシ
リサ「???」

Ｙ（Ａしゃん、アレ言っていいのかな？）ヒソヒソ
Ａ（多分大丈夫でしょ。）ヒソヒソ　グビグビ
Ｙ「え～とね……Ａｆｔｅｒｇｌｏｗと親衛隊メンバーで合同クリスマスパーティーやってる。」
リサ「……は？」ポカーン
Ｙ「最初は別々でパーティーするはずが、友希那が強引に話を進めて最後はモカが……おっと、これは喋っちゃうとアタシもヤバいな。」
リサ「…へ？」ポカーン
Ｙ「パーティーではリサに言えない会話も目白押し。」
リサ「…ふ～ん？」イラッ
Ｙ「最終的にお互いフツーに楽しんでる。」
リサ「…。」ブチッ
Ｙ（ｏｈ…完全にご立腹だね…。）
Ａ（こりゃ死人が出るな。）クビクビ
リサ「…。」プルルルルッ　ガチャッ
リサ「あ、友希那？用事済んだらウチに来てくれない？紗夜達や香澄達も連れてさ。」
リサ「皆居るんでしょソコに？嘘付いたって無駄だよ？アタシ知ってるから。」

「ちゃんと来てね？」

Y「怖～…。」
A「無茶しやがって…。」ナムナム

リサ「～～～～!!!!!!」ガミガミガミガミ
友希那「足が痺れたわ…。」ビリビリ
紗夜「こ、このくらいでは…。」ビリビリ
あこ「わ、我が麻痺ごとき…。」ビリビリ
燐子「うぅ…。」ビリビリ
香澄「何で私まで～！」ビリビリ
たえ「早く帰らないとオッちゃん達の餌が…。」ビリビリ

日菜「許してリサちー！」ビリビリ
イヴ「ブシドーがあれば…正座など…！」ビリビリ
麻弥「リサさん…そろそろ簡便して欲しいっス…。」ビリビリ

あまりアタシを怒らせない方がいい

おはようございます。
Ｒｏｓｅｌｉａのボーカル担当、湊友希那よ。
リサにＡｆｔｅｒｇｌｏｗと親衛隊メンバーだけでクリスマスパーティーをやってたのがバレて大変な事になったわ……。
誰が情報を漏らしたのか分からないけど、お陰でリサに怒鳴られたり忘年会で高いスイーツを奢らされたり……また財布が軽くなったじゃない!!
そして今日は……。

今井家　リビング
リサ「それじゃあ好き嫌い矯正を始めるよ～★」
親衛隊メンバー「「……。」」
リサ「　返　事　は　？　」ギロッ

親衛隊メンバー「「は、はいっ!!」」
リサ「よろしい、じゃあ最初は友希那からね～★」コトッ

〝青汁〟

友希那「うっ……。」
友希那（でも、最近の青汁はマイルドになったそうだから何とか…。）
リサ「買ってきたヤツあんまり苦くなかったからゴーヤ足しといたよ★」
友希那（リサァ!!!）
リサ「さあさあ、これ飲まないと帰れないよ?」ニッコリ
香澄「友希那先輩！頑張ってください！」
友希那「…っ!!!」ゴクッ　ゴクッ　ゴクッ
友希那（に、苦い…特に摩り下ろしたゴーヤみたいなのが強烈だわ…。）
ゴクッ…　ゴクッ…　ゴクッ……　コトッ…
友希那「の、飲んだわよ……。」ナミダメ
親衛隊メンバー「「おおおお!!!」」パチパチパチパチ

リサ「やるじゃん友希那！次は紗夜ね！」コトッ

〝ニンジンのグラッセ〟

紗夜「……。」タラー…
リサ「生じゃないしバターで食べ易くなってるハズだからイケるでしょ？」
リサ「あ、丸飲みはダメだよ？ちゃんと噛んで食べてね？★」
紗夜「ご、ご配慮に感謝します…今井さん…。」
日菜「おねーちゃんファイト!!」
たえ「紗夜先輩！兎の気持ちになればきっと食べれます！」
紗夜（兎の気持ちって何よ!?）
紗夜「…。」パクッ
紗夜（うぅ…バターで緩和されてるとはいえ、やはりニンジンの風味が…。）モグモグ
紗夜（一気に食べてサッサと終わらせましょう…！）モグモグ
紗夜「…っ！」パクッ　パクッ　パクッ
紗夜「…。」モグモグモグモグ…　ゴクン…
紗夜「ご…御馳走様でした…。」ゲッソリ

パチパチパチパチ
たえ「良い食べっぷりでしたよ先輩！」パチパチパチ
紗夜「あ、ありがとうございます…。」
リサ「お疲れ様！次はあこだよ！」コトッ

〝ピーマンの肉詰め〟

友希那「ちょっとリサ!?肉入りなんて不公平よ!!」ブーブー
日菜「ズルーい!!」ブーブー
リサ「あの後、巴に散々謝られたからそれに免じて★」
友希那「だからってこれh「もう一杯飲む？★」ニッコリ
友希那「言い過ぎたわ、ごめんなさい。」ドゲザ
リサ「…。」チラッ
日菜「!!」ドゲザ
イヴ「見事な土下座ですね…！」
あこ「お姉ちゃん…ありがとう…あこ、頑張って食べるからね！」
燐子「頑張ってあこちゃん…！」

あこ「さあ緑の魔獣よ、我にひれ伏すがよい！」パクッ
あこ（…ちょっと苦いけど、これならイケそう！）モグモグ
あこ「…。」パクッ　モグモグ　ゴクリ
あこ「御馳走様でした！」
パチパチパチパチ
リサ「お姉ちゃんにお礼言っときなよ～？★」
あこ「うん！」
リサ「さあて次は燐子だよ！」コトッ

〝セロリの野菜スティック〟

燐子「!?」サー…
友希那「えげつないのが来たわね…。」
麻弥「代わってあげられるのならジブンが喜んで食べるんですが…。」
あこ「頑張れりんりん！」
燐子「うぅ……。」
リサ「当然だけど丸飲み禁止だよ★」

リサ「普段からえげつない事やってるんだからこれ位余裕だよね？」ニッコリ
燐子「そ、そんな……。」タラー…
燐子「……。」ブルブル
燐子「い、いきます…！」パクッ
燐子（うっ……青臭い味……香りも……。）モグ…　モグ…
紗夜「白金さん！素早く噛んで直ぐ飲み込みましょう！その方が楽ですよ！」
燐子「は…はい……！」モグモグッ…　ゴクン…　モグモグッ…　ゴクン…
燐子「御馳走…様でした…。」ブルブル
パチパチパチパチ
あこ「お疲れりんりん！」ダキッ
リサ「これでＲｏｓｅｌｉａは終了だね！次は香澄！」コトッ

〝納豆ご飯〟

香澄「あぁ!!白いご飯に納豆が!?」ガーン
たえ「納豆ご飯、美味しいよ？」
香澄「私はダメなんだよ～～!!」

リサ「納豆はダシ醤油とカラシで混ぜて多少マイルドにしたからイケるって★」
香澄「そんなぁ…!!」
香澄（う～…ビジュアルも嫌だけど、やっぱりこの臭いが…。）
香澄（でも食べなきゃ帰れない……っ!!）パクッ
香澄「…。」モグモグ
香澄「うぇ…。」グスッ…
友希那（泣いてる戸山さん、可愛いわね。）キュンッ
リサ（やっぱりもう一杯飲ませてやろうかなぁ？）イラッ
香澄「御馳走様でした……。」ナミダメ
パチパチパチパチ
たえ「香澄、お疲れ様。」
リサ「お疲れ～！じゃあ次は……たえ、色んな意味でヤバイから頑張って。」コトッ
たえ「え？」

〝ざざ虫の佃煮〟

たえ「っ!??」ゾワァ…

リサ「ゲテモノ系って聞いて真っ先に思い付いたのがコレだった…。」
麻弥「昆虫食でも蜂の子やイナゴは結構美味しいらしいですが…この見た目は無理ですね…。」
紗夜「味の濃い佃煮なのがまだ救い…でしょうか？」
燐子「」チーン
リサ「流石のアタシもやり過ぎたと思ってるから、１匹だけでＯＫだよ？」
たえ「１匹…。」タラー・・・
香澄「頑張れおたえ…！」
たえ（食べたくない…。）
たえ（そうだ、あの窓から逃げれば…！）チラッ
紗夜「花園さん？もしや逃げようとしてますね？」ガシッ
たえ「!?」ギクッ
友希那「はぁ…仕方ないわね、私が食べさせてあげる。口を開けなさい？」スッ
たえ「いや、やｍ」パクッ
たえ（ああああああああああ!!!!）

たえ「」チーン

香澄「おたえ～!!」ユサユサ
日菜「リ、リサちー?もう止めようよ～…。」
リサ「ここまで来て止めれる訳ないでしょ?」コトッ

〝豆腐〟

日菜「やだなぁ…豆腐って全然味がしないんだもん…。」
紗夜「貴女は食生活が偏り過ぎよ、アイドルなんだからもう少し気を使いなさい。」
日菜「でもおねーちゃんだってニンジン食べないじゃん!」
紗夜「それはそれ、これはこれよ。」メソラシ
日菜「む～…。」
日菜「まあいいや、さっさと食べちゃおっと。」パクッ　ゴクッ
日菜「ご馳走様でs「ちゃんと噛んで食べてね～★」コトッ
日菜「えぇ!?最初に言ってなかったからセーフだよセーフ!!」
リサ「あ〟?」ギロッ
日菜「ごめんなさい噛んで食べるから許して下さい。」ドゲザ

イヴ（ヒナさんがここまで圧倒されるとは…私、無事に帰れるでしょうか…？）ブルブル

・・・・・・・・・・

日菜「ご馳走様でした…。」ゲッソリ

パチパチパチパチ

リサ「全く梃子摺らせて……次行くよ。」コトッ

〝キュウリの糠漬け〟

イヴ「予想はしてましたが、やっぱりコレなんですね……。」

友希那「海外でもピクルスとかの漬物があるけれど、ああいうのとは違うのかしら？」

麻弥「日本と海外では漬け方や食べ合わせが異なるので、似てるようで結構違いますよ。」

イヴ（これは難敵……でもブシドーの力があれば……！）

イヴ「いざ、尋常に勝負……！」パクッ

イヴ（〜〜〜!!）モグモグ
イヴ（この風味……やっぱり苦手です……。）モグモグ
パクッ…　モグモグ…　パクッ…　モグモグ…
イヴ「御馳走様でした…。」
パチパチパチパチ
麻弥「お疲れ様でしたイヴさん……さあ最後はジブンですね……！」
リサ「ラストはこれ！佃煮と並ぶ高級珍味だよ★」コトッ

〝フォアグラのステーキ〟

麻弥「おおぅ…。」
あこ「美味しそ〜…。」ジュルリ
紗夜「何だかお仕置きというよりは御褒美に見えますね。」
燐子「確かに…。」
麻弥「皆さんはそうかもしれませんけど…。」
麻弥（味が苦手って訳じゃないけど、ジブンがこんな高価な物を頂いていいのかっていう罪悪感が……。）パクッ

麻弥（う～ん…美味しいと言えば美味しい…しかし心がモヤモヤする…。）モグモグ
麻弥「むむむ……。」モグモグ
たえ「…。」ジー
たえ「リサさん！私も食べたいです！」
リサ「いいよ～★」コトッ
香澄「あ!?おたえズルい!!リサさん私m」
リサ「ダメ★」
香澄「…。」ガックリ
たえ「～～♪」ウマウマ
麻弥（佃煮の件があったとはいえ、サラッと御馳走を手に入れるとは流石ですね。）モグモグ
麻弥「御馳走様でした…。」コトッ
リサ「お粗末さまでした★」

・・・・・・・・・

あこ「やっと帰れるよ～！りんりん、帰ったらＮＦＯやろう？」

燐子「うん…。」
日菜「おねーちゃん、口直しにポテト買って帰ろ?」
紗夜「そうね、今日はLサイズを2個食べようかしら。」
たえ「香澄?お腹空いたからハンバーグ食べに行こ?」
香澄「行く行く!」
麻弥「ジブンとイヴさんは夕方に取材があるのでお先に失礼します。」
イヴ「皆さん、また明日お会いしましょう!」

スタスタ……

リサ「は~!終わった終わった!」
友希那「もうこんなのは懲り懲りよ…。」
友希那「それじゃ私も…。」

ガシッ

友希那「…え?」クルッ

リサ「友希那～？青汁がまだ残ってるから飲んでいきなよ～？★」ニッコリ
友希那「い、嫌よ!!あんな苦いの飲めないわ!!」ジタバタ
リサ「問答無用!!」グィ
友希那「離してーーーーーー!!!」ズルズル・・・

このスレは監視されています

【花咲川】ＪＫのラウンジ★３４【羽丘】

１：名無しのＪＫ

花咲川女子学園、羽丘女子学園の生徒が交流を深める為のスレです。

次スレは＞＞９９０を踏んだ方がお願いします。

※※注意※※

・誹謗中傷、個人名はＮＧ

・スレ管理人の巡回有り

２：名無しのＪＫ

立て乙

３：名無しのＪＫ

立て乙です！

４：名無しのＪＫ

立て乙

５：名無しのＪＫ

立て乙
ところで最近、羽丘のバンドにヤベーのが居るって聞いたがどうなんよ？
６：名無しのＪＫ
ヤベーの？ワイ羽丘だけど知らんわ
７：名無しのＪＫ
友達が言うには
「動きが人間じゃねえ（１名除く）」
「ボーカルが超脳筋」
「銃刀法違法の風紀委員」
「ドラムがちんちくりん…って書き込んだら家にマフィアが来た」
「ベースが唯一の良心」
８：名無しのＪＫ
あ～それ多分ウチの知り合いだ…
９：名無しのＪＫ
マジかよ
１０：名無しのＪＫ
マフィアが来るってどゆことなの

で、詳細オナシャス！
１１：アリス
おｋ、ちなスペック←
・花咲川１年、帰宅部
・バンド所属、キーボード
１２：名無しのＪＫ
ｗｋｔｋ
１３：名無しのＪＫ
キーボードええな～
以前ちょろっとやった事あるがクソむずくて
１４：アリス
始めるぞ。
そのバンドなんだが…仮にＲとしよう。
プロ顔負けのガチバンドでウチのバンドも結構世話になってる。
演奏に関してはホントすげーんだわ。演奏はな…。
１５：名無しのＪＫ
え、あのバンドそんなヤベーの!?

１６：アリス
ヤベーのは確かだが一応条件付きだ。
ベースにちょっかい掛けなきゃ基本まともだからさ。
問題はベースに何かあったらウチのメンバーを駆り出したりする事なんだよ！
去年の秋にモールで乱闘騒ぎがあったって話出てたろ、あれ起こしたのＲだぞ？
ウチのメンバーも加担してたから黙ってたが、そろそろ年度も替わるしな。
１７：名無しのＪＫ
マ？あれって目撃した人が異様に少なくてデマ説あったよね？
１８：アリス
デマじゃねーぞ。私もメンバーから聞くまで知らんかったけど。
ちなみに知ったキッカケは加担したメンバーがＲから大金貰ってたから。
１９：名無しのＪＫ
金で釣ったのか…
２０：名無しのＪＫ
ワイ、Ｒファンだけどショックだわ
そもそも乱闘起こすってベースの子何されたんだよ？
２１：アリス

男子校の不良に絡まれたらしい。
それをRとウチのメンバーがフルボッコにしたと。
ちなみにベースを守るべくRや他のバンドメンバーで親衛隊なるものを組んでる。
ウチのメンバーも2人居る。
あと居ないとは思うが喧嘩売るのは止めとけ、怪我どころじゃ済まないから。
２２：名無しのＪＫ
ベースの子って〇〇だっけ？あの子フレンドリーでファン多いけど裏でそんな事に
…
２３：名無しのＪＫ
個人名出したらアカンぞ
２４：名無しのＪＫ
管理人さんこっちです
２５：名無しのＪＫ
出したって精々レス削除くらいでしょ？
２６：名無しのＪＫ
アンタ知らないのか？ここの管理人はそんな緩くないぞ？
２７：名無しのＪＫ

年度末に盛大な花火大会が見れそうだな
２８：管理人
巡回です
違反者が居るようなので制裁準備中
２９：名無しのＪＫ
管理人ｋｔｋｒ!!
３０：名無しのＪＫ
ホントに来たｗｗ
３１：アリス
ｏｈ・・・。
３２：名無しのＪＫ
＞＞２２の運命や如何に…
３３：名無しのＪＫ
盛り上がってまいりました
３４：＞＞２２
来いよ管理人ｗｗｗ
やれるもんならやってみろｗｗｗ

３５：管理人
＞＞３４
面白い奴だな気に入った、○すのは最後にしてやる
貴女の家に向けて対人ドローンを発進させました
３６：名無しのＪＫ
管理人激おこｗｗ
３７：アリス
ちょまま!?対人ドローンって何だ!?
３８：名無しのＪＫ
あれだろ、攻撃ヘリのドローン版みたいな？
３９：管理人
ターゲット補足
４０：名無しのＪＫ
はええよホセ
４１：＞＞２２
何か窓の外を変なドローンが飛んでるんだが
まさかな

４２：名無しのＪＫ
何が始まるんです？
４３：名無しのＪＫ
第三次大戦だ
４４：＞＞２２
ちょ、窓が吹っ飛ばされた…
４５：名無しのＪＫ
＞＞２２逃げてー！
４６：アリス
書き込んでる暇があるなら逃げろよ!!
４７：名無しのＪＫ
今北産業
４８：名無しのＪＫ
やべーバンドＲ
＞＞２２
管理人激おこ
４９：名無しのＪＫ

おｋ、把握した
５０：名無しのＪＫ
戦況報告マダー？
５１：名無しのＪＫ
前回の違反者はボコボコにされたが最後は平謝りでギリ許された
＞＞２２はしょっぱなからヤベー事になってるしガチで命ないんじゃね？
５２：管理人
おめでとう、＞＞２２は消去された
５３：名無しのＪＫ
あ…
５４：名無しのＪＫ
無茶しやがって…
５５：アリス
＞＞２２ーーー!!!
なあ、人違いならいいんだが管理人のやり方が知り合いに似ててデジャブを感じる…。
５６：管理人

>>55
（。∀。）つ■　イエローカード
57：アリス
え、ちょ、嘘だろ!?
58：名無しのＪＫ
おおっとこれは？
59：管理人
アリスさん？
これ以上喋ったら分かりますよね？
60：名無しのＪＫ
管理人まさかＲの関係者じゃ？
61：名無しのＪＫ
>>7の友人は書き込みから家を特定されたレスでキーボードに関して言及されていない（出来ない？）
つまり…そういうことか…
62：名無しのＪＫ
おいばかやめろ

６３：アリス
スマン、本人からメールが来た…。
これ以上語れそうにない。
６４：名無しのＪＫ
あらら…
６５：名無しのＪＫ
やっぱり関係者じゃねーか！
６６：名無しのＪＫ
これ以上は模索しない方がよさそうだな
６７：名無しのＪＫ
じゃ～パンの話でもする～？
６８：名無しのＪＫ
パンはチョココロネが至高
異論は認めん

市ヶ谷家　蔵

有咲「燐子先輩やっぱやべーわ。」
有咲「リサさんに一応相談しておくか…。」ポチポチ

・・・・・・

ピロンッ♪
リサ「ん？有咲からメールが…。」
リサ「……セロリ買ってくるか。」スクッ
リサ「あと有咲にお詫び考えなきゃ…。」ブツブツ

・・・・・・

燐子「ハッ!?何だか嫌な予感がします…!!」
麻弥（あ、これは適当に理由つけて帰った方がよさそう…。）

続く…